

② (旧記) 上水・下水・橋

(表紙、題裏なし)

(朱書)「二」「十四」の朱書傍注は省略

「一」 大伝馬町式丁目辻より大坂町迄、上水樋桝新規仕替入目

割之事

「二」 一、同所壺丁目本町四丁目境上水修復入目覚

「三」 一、本石町通上水之儀ニ付、彦右衛門方江合力金遣候哉之旨

御尋ニ付書上一件

「四」 一、大伝馬町井数之覚

「五」 一、本石町四丁目より久松町迄上水樋・浜町御武家方樋式筋

有之候処、御武家方御入用樋壺筋ニ相成、其後出銀割合

申来候事其外一件

「六」 一、浜町武家方組合上水普請金壹ヶ年ニ五両宛可差出旨相極

候ニ付、武家方より取置候書付之事

「七」 一、神田御上水町々水役四郎兵衛与申者召抱候証文之事

「八」 一、本町四丁目大伝馬町横町上水普請諸人用割付町数間敷之事

附浜町御武家出銀御出し無之ニ付一件書留

「九」 一、水役伝兵衛・伊兵衛水金取来候訳并四郎兵衛儀御尋ニ付

返答書差出候事

「十」 一、浜町御武家方分水普請等之節、直御掛合ニ可被成旨御達之事

「十一」 一、本町壺丁目分桝南北戸樋寸法之事

「十二」 一、上水一件、町御奉行様御掛被仰付候、并町年寄衆上水方

掛り被仰付候事

「十三」 一、井戸ヶ輪・亀ノ甲矢来新規修復願方之事

「十四」 一、大伝馬町下水幅之儀ニ付証文之事

「十五」 一、同所下水浚請負証文之事

「十六」 一、大伝馬塩町牢屋前大下水落口之儀ニ付御尋之事

「十七」 一、六助橋普請請負人代金請取手形之事

「十八」 一、千鳥橋入用金割付之事

「十九」 一、御公儀橋請負之節、砂利取人足請負之事

「廿」 一、武士方町方并町方計入目割合橋御尋之事

「廿一」 一、右ニ付伊勢町式ヶ所之橋書上候事

「廿二」 一、川岸蔵裏之方瓦庇願

「廿三」 一、新規蔵・建直蔵・新規湯屋名題・仲間有之商人諸願等之

儀ニ付被仰渡之事

「廿四」 一、川岸地面より地代受取御忠節之儀、願人有之候ニ付返答

書之事

(朱書)

「一」 大伝馬町式丁目辻より本大坂町東辻迄之上水樋桝新敷仕替候入

目銀割付

合金百拾九兩貳分ハ 戸樋枳堀手間諸色入用金也

右之内 金六拾兩ハ 土井能登守様 同周防守様

同兵庫頭様 同佐門様

右御四人様之御屋敷より御合力金也

一、金五拾七兩貳分ハ町々より之集金也

但 惣間数合九百貳拾間小間壹間ニ
銀三匁八分七厘五毛掛り

金壹兩ハ和泉町市右衛門店溜屋五郎兵衛出シ、金壹兩ハ
(金百マン)

都合金百拾九兩貳分也

大伝馬町間数

一、六間四尺三寸三分 但横手貳拾間三分一 式丁目角 新四郎

一、六間四尺三寸三分 但横手貳拾間三分一 旅籠町 惣三郎

いけすや

一、拾七間半 但新道横手三分一 五左衛門 同人

善兵衛

一、壹間半 善兵衛

一、貳間半 五郎左衛門

一、五間 甚右衛門

一、貳間 五左衛門

一、貳間半 善兵衛

一、拾貳間 山本官仙左

間数合六拾壹間五尺四寸壹分 此銀貳百三拾九匁六分 但小間ニ銀三匁八分七厘五毛宛

下船横町間数

一、六間 市右衛門

一、三間 甚兵衛

一、貳間 孫兵衛

一、三間 但横手九間之三分一 下船横町北角 金十郎

一、六間四尺三寸三分 但横手九間之三分一 同南側 茂左衛門

右五口惣間数合貳拾間四尺三寸三分

此銀八拾匁壹分

但小間ニ三匁八分七厘五毛宛

田所町間数

一、百四拾五間三尺七寸貳分 田所町本間 角

一、五間四尺三寸三分 但横手拾七間三分一 角 三右衛門

一、六間四尺三寸三分 但横手貳拾間三分一 伊右衛門

右三口之間数合百五拾七間五尺八寸八分

此銀六百拾壹匁八分八厘

但小間三匁八分八厘五毛宛

乗物町分

一、三拾間 庄助屋敷

一、拾八間 長五郎屋敷

一、拾貳間四尺三寸三分 乗物町東両角 但横手三拾八間之三分一

右三口之間数合六拾間四尺三寸三分

此銀貳百三拾四匁四分

但小間二三匁八分七厘五毛宛

長谷川町間數

一、百九拾七間三尺貳寸五分 長谷川町本間

一、四間

但横手拾貳間之三分一

角 庄五郎

一、六間四尺三寸三分

但横手拾貳間之三分一

角 三右衛門

右三口之間數合貳百八間壹尺八分

此銀八百六匁六分五厘

但小間三匁八分七厘五毛ツ、

一、百四拾三間

此銀五百五拾四匁壹分貳厘五毛

但小間右同斷

一、百貳間貳尺三寸三分 堺町本間

角

一、六間壹尺八寸

但横手拾八間半之三分一

加兵衛

一、六間四尺三寸三分

但横手貳拾間之三分一

七郎兵衛

右三口之間數合百拾五間壹尺壹寸壹分

此銀四百四拾六匁貳分五厘

但小間二三右同斷

一、拾七間半 此銀六拾七匁八分壹厘

堺町会所

一、六間半

但横手拾九間之三分一

和泉町角 宗十郎

一、百貳拾貳間三尺七寸

本大坂町本間 此銀貳拾五匁貳分

一、六間貳尺壹寸六分

但横手拾九間之三分一

大坂町 北側 東側

右二口之間數合百貳拾八間五尺八寸六分

此銀四百九拾九匁四分八厘

此銀四百九拾九匁四分八厘

右惣町間數合九百貳拾間也

延宝八年申十一月

但小間二三匁八分七厘五毛宛

(朱書) 本町四丁目ト大伝馬町壹丁目境上水修復入目覺

一、堀留町

六拾壹間

此銀拾貳匁八分壹厘

一、下船横町

百貳拾三間

此銀貳拾五匁八分三厘

一、同壹丁目

六拾壹間貳尺七寸

此銀拾貳匁九分

一、同貳丁目

六拾間三尺七寸五分

此銀拾貳匁七分三厘

一、同三丁目

六拾間四尺壹寸

此銀拾貳匁七分五厘

一、小網町壹丁目

六拾貳間半

此銀拾三匁壹分三厘

一、同横町

三拾七間

此銀七匁七分七厘

一、同貳丁目

九拾八間半

此銀貳拾匁六分九厘

一、同三丁目

百八拾間半

此銀三拾七匁九分五厘

一、箱崎町

貳拾九間五尺三寸

此銀六匁貳分七厘

一、北新堀町

百三拾八間四尺

此銀貳拾九匁壹分壹厘

一、堀江町壹丁目

六拾三間

此銀拾三匁貳分三厘

一、同貳丁目

六拾三間

此銀拾三匁貳分三厘

一、同三丁目

六拾三間

此銀拾三匁貳分三厘

一、同四丁目

三拾八間

此銀七匁九分八厘

一、同六軒町

貳拾三間半

此銀四匁九分五厘

一、新材木町

百三拾六間

此銀貳拾八匁五分八厘

一、新乗物町

百三間半

此銀貳拾壹匁七分四厘

一、葺屋町 九拾四間半 此銀拾九匁八分五厘

一、甚左衛門町 五拾四間 此銀拾壹匁三分四厘

惣合千五百五拾貳間九寸五分 銀合三百貳拾五匁九分貳厘
但小間貳貳分壹厘掛り

右払方之覺

一、銀四匁 船大工壹人分

一、銀拾貳匁 瀬板四枚

一、同五匁 槓皮貳束

一、同六匁 欠折釘三拾本

一、同百九拾貳匁六分 檜葉板長貳間半壹尺厚三寸 拾四枚

同壹間板

一、同三匁 杉丸太貳本

一、錢五百五拾文 へな土壹艘

一、錢三貫五百文 堀方貳拾六人

一、同百文 明俵代

一、同五拾文 車損料

右拾口合銀貳百貳拾貳匁六分、錢四貫貳百文此銀五拾九匁貳分

右之通修復之節水役四郎兵衛方より調出シ申候故、則四郎兵衛方致差引相渡申候

右貳口銀ニ合貳百八拾壹匁八分

右者本町四丁目分大伝馬町壹丁目之両境上水修復之時分堀方并材木諸事入目録慥請取申候、以上

元錄十三年辰六月廿五日

大伝馬町

水役 四郎兵衛 印

月行事衆

一、銀三拾匁 上水見分之節御訴詔ニ參候時分并當諸事入用

右之銀慥請取申候、以上

辰六月廿五日

堀留町壹丁目

月行事 治兵衛 印

一、銀拾匁 普請之時分酒代入用

一、錢貳百五拾文 同酒代

此貳口分銀拾匁錢貳百五拾文請取申候 伊兵衛 印

銀三百貳拾壹匁八分ト錢貳百五拾文

右之趣出入無之者也

元錄十三年辰六月廿五日

役人中

(朱書)
「三」

一、本石町通御上水之儀ニ付、彦右衛門方江合力金有之哉与今日御召被

成、御尋被遊候処、私支配之町人共之方よりハ此度少茂出し不申候、

私支配之儀ハ大伝馬町壹丁目・貳丁目・通旅籠町北之横町江計、右

之御上水少々為取申候、然ル所四五年以前彦右衛門家作仕候為祝儀

樽代遣候由、井戸主共私方江申来候、此度之儀も彦右衛門井戸主方

江參候而申候由、私方江相伺申候得共差留置申候、以上

元錄十四年巳五月廿四日

大伝馬町

勘解由

此書付伊勢平八様江差上候処、先年被仰渡候趣書加候様ニと被仰付

御返シ被成候ニ付認直判形調、同廿五日差上申候、尤又四郎殿・甚兵衛殿・次右衛門殿江遣シ披見ニ入候

一、元浜町名主治右衛門代小兵衛・月行事吉右衛門申上候、拙者共町内上水之儀者御屋敷様方より御取被遊候水申請候、就夫水役人彦右衛門方江五六年以前ニ而可有御座候哉、町内より少合力仕候得共、其節之月行事帳面三年前十一月六日之類火ニ焼失仕候ニ付曉知不申候処、今日小伝馬町名主又四郎方承合候処、五年以前丑年鉄炮町・大伝馬町并私共町内四ヶ所ニ而金拾兩為樽代遣申候

一、当春中小伝馬町・鉄炮町両町より井戸壺ツニ付、金壹分宛合力仕候由ニ御座候得共、私共町内何角与仕、彦右衛門方江遣シ不申候、右之通相違無御座候、以上

元録十四年巳五月廿四日

元浜町名主次右衛門
代 小兵衛
月行事 吉右衛門

右者上水御奉行伊勢平八様江差上候書付

〔^{朱書}四〕 大伝馬町井数之覚

一、井戸数 壺丁目 廿八

内^{十九}_{十九} 本町通上水より取

一、同 式丁目 四拾三

内^{三十九}_{四十九} 本町通

二口^〆井戸数七拾壺

一、大伝馬塩町 井戸数

拾六

内表井七ツ

一、通旅籠町 井戸数 三拾式 内表井九ツ

一、下船横町 井戸数 拾七 内表井四ツ

一、堀留町 井戸数 拾三 内表井戸三ツ

惣井数合百四拾九有之候

〔^{朱書}五〕 本石町四丁目より久松町迄上水樋・浜町武家方樋式筋之所、其後武家方御入用計ニ而樋壺筋ニ相成候処、尚又其後始而武家方より出銀申来候割合一件

乍恐口上書を以御訴詔申上候

一、本石町四丁目横町・鉄炮町・小伝馬町三丁分、大伝馬町壺丁目・式丁目横町・通旅籠町横町・通油町横町・元浜町・橘町壺丁目・久松町右町人共申上候、拙者共町内上水之儀、先規樋枦手前入用ニ而取来申候処、五拾ヶ年程以前浜町御屋敷様より戸樋御入被成、戸樋式筋ニ而御座候所、其後御屋敷様方より御入被成候上水細御座候由ニ而拙者共町内戸樋枦つぶし、御屋敷様方より之御入用ニ而大樋ニ被成下、上水取来申候、其以後度々御屋敷様方より御修復御座候得共、右之誤ニ而拙者共町内江御入用御掛ケ不被遊候、然ル処此度浜町之末上水御普請御座候ニ付、御入用割之儀出申候様ニと先達而被仰付候得共、右申上候通唯今迄御入用之割銀等出申候儀無御座、殊ニ近年町中困窮仕候故難儀仕御訴詔可申上候得共、名主共申候者被仰付御意之趣も重ク御座候間、先致延引候様ニと申ニ付其通ニ仕罷有候処、去ル廿一日 但馬守様御浜屋敷江名主・町人共被召寄、此度上水御普請割付御書付被成御渡被遊候、依之右之町人共寄合、割付仕候得者如斯御

座候

割付之覚

一、銀三拾五貫九百目八分四厘 上水御普請入目、右者拾^(ヤ)割三ツ分町方

此銀拾貫七百七拾匁貳分五厘貳毛

此金^(金百ム)

我々町内より来ル廿七日迄集、差出申候様ニと被仰付奉畏候、右上水取候町人共打寄、間数相改申候

一、惣間数合七百七間 本石町四丁目より久松町迄

但小間壹間ニ付金壹分ト銀貳分五厘程ニ相当申候

右之通御座候割銀之儀、大分之儀ニ御座候間迷惑仕候、御用捨被遊被下候ハ、難有可奉存候、ケ様御敷申上候茂恐多奉存候得共、拙者共度々類焼、其上諸事高直ニ而町内困窮仕候故御訴詔申上候、被為聞召分御慈悲奉願候、以上

元録十五年午十月

惣町人共

御道御奉行様

御役人衆中様

右訴狀本所長福寺ニ而寄合相認、小河源左衛門殿江相渡申候得共、訴訟難叶御座候ニ付、大伝馬町・通旅籠町・通油町・元浜町・橘町・久松町此分訴詔ニ罷出候

覚

浜町筋上水新規修復惣浚共之入目

合銀三拾五貫九百目八分四厘

十一割三ツ^(ヤ)

此銀拾貫七百七拾目貳分五厘五毛 兩替六拾匁

金^(金百ム)ニ百七拾九兩貳分銀五分五厘貳毛

右之三ツ分之出銀、来ル廿七日 秋元但馬守浜屋敷成海武太夫方迄可被持參候、以上

午十月廿二日

淺野壹岐守内

前田曾右衛門

秋元但馬守内

成海武太夫

本石町四丁目

鉄炮町

大伝馬町横町

壹丁目

小伝馬町貳丁目

三丁目

元浜町并通油町兩角

久松町

橘町 菱屋

彦兵衛屋敷

名主・月行事衆

此書付秋元但馬守様浜屋敷成海武太夫殿より治右衛門・勘解由江御渡被成候

浜町御屋敷方上水新規修復入目

一、合三拾五貫九百目八分四厘

此銀十^(マ)割三ツ分

銀拾貫七百七拾匁式分五厘貳毛

町方

此金百七拾九兩貳分銀五分五厘貳毛

町方割付間數之覺

一、間數三拾三間半 本石町四丁目

一、百貳拾間 鉄炮町

一、同 百貳拾三間 小伝馬町壹丁目

一、同 百貳拾貳間 同貳丁目

一、同 百貳拾貳間 同三丁目

一、同 五拾四間 大伝馬町横町

一、同 拾九間半 通旅籠横町

一、同 八拾五間半 通油町横町

一、同 拾壹間半 元浜町

一、同 拾壹間半 橘町壹丁目菱屋屋敷

一、同 貳拾四間 久松町

惣間數合七百七拾三間^(マ)

銀高拾貫七百七拾目貳分五厘貳毛

但 小間壹間ニ付
金壹分銀壹分六毛宛ニ相当り申候

右之通吟味仕、書付差上申候、以上

午十一月三日

勘解由
治右衛門

右書付 保田越前守様より奈良屋市右衛門殿江被仰付、兩人方江被申渡

候ニ付此方宅ニ而寄合相認、兩人奈良屋江致持參候、尤無印

「六」^(朱書)

浜町武家方組合上水普請金壹ヶ年ニ金五兩宛可差出旨相極候ニ付、武家方より取置候書付

証文之事

一、浜町御組合上水、其方支配大伝馬町壹丁目横町・同貳丁目・通旅籠町、右之町人共先規より御組合之上水被下置候処、去年より上水御修復入目金自今割掛ケ申様ニ道御奉行衆より被仰付、入用高拾^(マ)ヲノ物三ツ分、右之町々江去年より割掛出銀差出申候処、此度達町人共御願申上、自今以後私共町内并通油町・元浜町・橘町申合壹ヶ年ニ金五兩宛、上水御修復浚金差上申度願申ニ付、右之段道御奉行松下権兵衛様御月番未七月廿二日之御寄合ニ召連相伺候候、願上候通被仰付可然与御意ニ付、右之通相定申候所実正也、然ル上者向後上水御修復入目金之儀相除、少も割掛申間敷候、依之年々浚修復為料毎年金子五兩宛右之町内より三月中急度其年之年番方江相渡可被申候、尤当未年分請取申候、為後日証文仍如件

元禄十六年癸未八月九日

土屋相模守内

渡辺権兵衛

水野隼人正内

萱生六左衛門

大伝馬町横町

月行事衆

まいる

〔七〕

神田御上水一件ニ付、町々江水役四郎兵衛与申者召抱候節証文

一、神田御上水之儀ニ付諸事為御使等之拙者儀町々御抱置候ニ付、上水

一件之儀不寄何事御差図次第相勤可申候事

一、町々ニ而水道普請有之御奉行所江御訴之節、絵図・証文之儀私方江被仰下次第不寄何時相認進可申候事

一、町々ニ而神田上水御普請有之候節、請負之者与一身不仕、町々御為ニ成候儀無遠慮可申上候、勿論私欲ヶ間敷儀仕間敷候事

一、御奉行様御替之節御年番名主中江無御断自分ニ罷出申間敷候、御年番名主衆中被召連候而参上可仕候

一、御奉行様方之儀者不及申、何茂様并町々衆中江も少成共慮外ヶ間鋪儀仕間敷候、尤町々上水戸樋榎普請有之御見分之御奉行衆御出之節、御奉行衆与御同座不仕相勤可申候

一、御抱為給銀、町々より小間壹間ニ付壹ヶ年ニ銀壹分宛被下候筈ニ相極メ申候、毎年盆前・極月兩度ニ御集御年番より御渡可被下候、以後不寄何事御訴詔ヶ間敷事申上間敷候

右之通急度相勤可申候、若不屈成儀於御座候者御取上ニ成、外之者ニ御申付候共一言之儀申間敷候、尤私儀相勤申儀難成候節者、替之者御見立被成可被仰付候、私方より替之者入間敷候、為後日証人加判手形仍如件

宝永元年申四月四日

名主御衆中

盤本町

水役 四郎兵衛

下谷上野町家持

証人 仁兵衛

〔八〕

宝永三年戌四月

本町四丁目大伝馬町壹丁目南側西横町通り上水合所戸樋并榎合所戸樋通之切蓋・石垣築直、浚代・大工手間・手伝人足諸色一式之入用割付町数間數之目錄

一、本町四丁目大伝馬町壹丁目南側西横町通り上水合所之戸樋通長貳拾三間余、浚堀方代并水上指口之木戸樋長七間新敷仕直シ、南橋詰之大榎壹ツ新敷取替、此榎指口前後合所取合之木戸樋式間余新敷仕直シ、此材木代・釘・銚・真皮・へな土・大工手間・手伝車力人足諸色入用仕立候處、水乗兼申候ニ付其後右之合所戸樋・石垣不殘取払、地形掘下ヶ合所蓋石兩側江築上、新規板ニ而切蓋ニ仕直、此材木代・大工手間・手伝車力・へな土・筵・掘方人足諸色兩度之入用割付町数間數之目錄

合金六拾七兩貳分貳朱四匁八分

但惣町間數合千五百七拾六間三寸五分

小間ニ付銀貳匁六分貳厘四毛掛り也

- | | | |
|-------------|--------------|--------|
| 一、六拾壹間 | 此銀百五拾九匁八分貳厘 | 堀留町 |
| 一、百貳拾間 | 此銀貳百六拾匁九厘貳毛 | 下船横町 |
| 一、百三拾間 | 此銀三百三拾七匁九分八厘 | 新材木町 |
| 一、九拾間 | 此銀貳百五拾四匁四分四厘 | 吹屋町 |
| 一、五拾四間 | 此銀百四拾壹匁四分八厘 | 甚左衛門町 |
| 一、貳拾三間半 | 此銀六拾壹匁五分七厘 | 堀江六軒町 |
| 一、四拾壹間半 | 此銀百八匁七分三厘 | 同会所新道 |
| 一、百八拾貳間四尺五分 | 此銀四百七拾八匁八分貳厘 | 下船町三町分 |
| 一、貳百三拾壹間半 | 此銀六百六匁五分三厘 | 堀江町四丁分 |

一、三百七拾五間半 此銀九百八拾三匁八分壹厘 小船町三町分

一、貳拾八間五尺三寸 此銀七拾五匁六分五厘 箱崎町

一、九拾九間 此銀貳百五拾九匁三分八厘 新乗物町

一、百三拾八間四尺 此銀三百三拾九匁五分九厘 北新堀町

惣間數合千五百七拾六間三寸五分

此銀四貫六拾貳匁三分 但小間壹間ニ付貳匁六分貳厘四毛宛

一、先年浜町御屋敷より半金程出申候ニ付、此度御屋敷江出金之儀願候得者出不申候、其後度々甚左衛門町次郎右衛門殿より御屋敷江度々願被申候得共埒明不申候、金子五兩程次郎右衛門殿役人衆より口上之由ニ而使之者ニ被遣候、次郎右衛門殿より被致返進候、其後度々寄合も有之上水御奉行衆江茂願上被申候得者、隨分御敷可申様ニと計被遊御意候、其後又々御屋敷江願被申候得者埒明不申候ニ付、重而水口之願上相談可有之由ニ而月廻之時分ニ付相談も其以後無之候

〔朱書〕
九 乍恐以書付申上候

一、水役伝兵衛・伊兵衛儀如何様之子細ニ而水金取来候哉与御尋被遊候、御上水水上塵芥等取払、其外御上水場所見廻り候ニ付先年より水金遣申候所、伝兵衛与申請取申所も御座候、又者源六与申請取申場所も御座候、何レ共耆人ニ相渡申候、委細之儀者年久敷儀ニ而覺申無御座候

一、四郎兵衛儀御尋ニ御座候、町々御上水之儀ニ付、町々ニ而遣ひ申為メ召抱給金遣申候

右之通御座候、以上

享保五年子五月廿九日

如斯相認御月番 美濃部勘兵衛様江差上候、両御番所江も無判ニ而老通宛差上候也、惣八郎殿より下書来候ニ付写置候

享保五年子十二月

一、申談候儀在之候間、明後四日五半時三浦肥後守屋敷玄関迄名主・月行事耆人宛可被参候、以上

十二月

神田上水掛り候

惣名主共

年番名主

吉右衛門

善左衛門

久兵衛

太郎右衛門

惣八郎

権左衛門

三浦肥後守内

福井政右衛門

横田備中守内

宮本藤右衛門

久松町

同北側

村松町

橘町壹丁目

同四丁目

元浜町

通旅籠町

右名主・月行事衆中

大伝馬町壺丁目
同式丁目
新道横町

右之通廻状ニ付、当日肥後守様江致参上候得者、藤右衛門殿・政右衛門殿
立合にて左之通証文致候様被申候ニ付、則連判証文仕候扣

〔保書〕
「十」

一、各町方江浜町分水遺事ニ候得者、普請等有之節者只今迄伊勢屋彦右衛門
方江相達候而、彦右衛門より年番方江申達候得共、向後者年番方江直
ニ案内可有候、品ニ寄年番より立合申付候儀も可有之候
一、出金之儀、唯今迄者彦右衛門方江請取置候様申付置候得共、此以後
者年番より毎年二月日限相極次第廻状可差出候条、日限無相違年番
方江可有持参候、若不埒成儀も有之候ハ、水口留候間、其旨可被相
心得候、以上

子十二月四日

右之通承知仕候、以上

当年番
横田備中守内
宮本藤右衛門

三浦肥後守内
福井政右衛門

通油町
名主
月行事
元浜町
次兵衛
喜兵衛
五郎右衛門

浜町上水御組合
御年番衆中様

今日上水御組合御年番中江貴殿被招呼、右之通証文被成候由、委細被仰
聞承知仕候、為後日井主共連判仕証文仍如件

子十二月四日

大伝馬町壺丁目

六郎兵衛 印

五郎右衛門
武右衛門
八郎兵衛
清兵衛
孫兵衛
仁左衛門
六兵衛
三郎左衛門
佐次右衛門
幸七

式丁目

橘町壺丁目
月行事
又兵衛
橘町四丁目
名主
五郎左衛門
五郎兵衛
月行事
利右衛門
仁兵衛
名主
村松町
久松町
月行事
与兵衛
通旅籠町名主勘解由代
佐次右衛門
月行事
又兵衛
大伝馬町
同
孫四郎

通旅籠町

藤兵衛
三右衛門
善三郎
六兵衛
金右衛門
長兵衛
忠兵衛
権兵衛
与兵衛

〔朱書〕
十一 本町壺丁目分レ枡南北戸樋寸法

一、南方戸樋之内寸法 横幅三尺 高サ三尺壺寸五分
一、北方戸樋之内寸法 横幅貳尺三寸五分 高サ貳尺貳寸程
右之通水元内田茂左衛門并南北年番名主共四人立合見分仕候所、相違無御座候、以上

享保十七年子閏五月廿四日

南方年番数寄屋町

名主 伊左衛門

北方年番本石町

名主 伝左衛門

新材木町

名主 吉左衛門

新乗物町

名主 善左衛門

右書付深津八郎右衛門様江差上候

〔朱書〕
十二 元文四未年八月

上水一件、町御奉行様御掛りニ被仰付候、并町年寄衆上水方掛りニ被仰付御扶持方頂戴被致候通達之事

一、今朝奈良屋御役所江年番共被召呼被仰渡候者、上水一件向後町御奉行所様御掛ニ被仰付候、道之儀者唯今迄之通道御奉行様御掛りニ而御座候、上水御願之儀者当分者 土佐守様江可罷出旨、尤御番所江御願不被成前、奈良屋御役所江御伺被成、御差図有之御番所江御願可被成候、右之段早々申継候様被仰渡候ニ付、如斯御座候、以上

未八月

与兵衛

中通

年番

昨五日町御年寄御三人御上水方御掛りニ被仰付、殊ニ御扶持御頂戴御座候間、御勝手次第御飲御出可被成候、為念如此御座候、以上

未八月六日

中通

年番

〔朱書〕
十三

井戸ヶ輪并亀ノ甲矢来新規修復、道御奉行様江御願不申相済来候間、以来も右之通被成下候様仕度願

一、町中有来候井戸上ヶ輪并たが懸直亀甲矢来仕直繕之儀、去々年も申上候通、先年者道御奉行様江も右之類御願不申上相済来候儀ニ御座候間、何卒右之通被成下候ハ、名主共弥以入念吟味仕候而、右之類仕直候様仕度奉願候、以上

寛保元年酉七月

大伝馬町

勘解由

平右衛門町

寛文三年卯八月二日

印

平右衛門
 弥左衛門町
 弥左衛門
 通四丁目
 藤次郎
 鎌倉町
 平次郎
 大鋸町
 茂兵衛
 兼房町
 甚次郎
 茅町
 弥兵衛
 西紺屋町
 五郎左衛門
 新網町
 惣十郎

三左衛門
 善右衛門
 四郎右衛門
 清四郎
 甚十郎
 十右衛門
 七兵衛
 兵左衛門
 与兵衛
 長十郎
 道貞
 庄左衛門
 仁右衛門
 久兵衛
 弥次右衛門
 与惣左衛門
 利兵衛
 權四郎
 如水
 茂左衛門
 德兵衛
 庄左衛門
 市左衛門
 新四郎
 市兵衛
 長三郎
 忠次郎
 七郎兵衛
 茂左衛門
 德兵衛

月行事

馬込勘解由殿
佐久間善八殿

〔朱書〕
十四

一、大伝馬町沓丁目北側新道ニ当り申候下水幅、前々より三尺ニ而御座候、只今も幅三尺ニ仕置申候、同式丁目者下水幅沓間ニ而先規より御座候を、会所地より半分、我等町より半分埋立、唯今幅三尺ニ仕置申候、同南側下角より上江式拾九間之間、先規より沓間之下水、会所より埋出、只今幅三尺ニ仕置申候、其外下水無御座候、此下水大伝馬町之下水ニ而御座候、会所より少茂構無御座候

右之通何茂立合吟味仕書上申候、少茂偽無御座候、為後日連判差上申候、仍如件

〔十五〕 下水浚請負証文之事

一、大下水之事

一、町並雨落同横手雨落溝之事

右ヶ条之通、御町内表裏境雨落横手共下水・小溝浚之儀、拙者願候而御町内より御請負仕候、然上者壹ヶ年二三月・九月兩度浚可申候、尤其外町々滯候所御座候ハ、被仰付次第早々浚可申候、賃銀之儀者壹ヶ月二表小間壹間ニ付貳厘五毛宛、浚候後月勘定ニ而六月・十一月兩度二町々月行事衆江參請取可申候、縦何様之儀御座候而船并人足等高直ニ罷成候共、増銀之御訴詔仕間敷候、惣而浚候芥土御堀江捨不申、御定之場所江捨可申候、尤不被仰下候共常々見廻り無滯様浚可申候、勿論浚之節手代相添、人足等御町内衆中江少も慮外ヶ間敷儀為仕申間敷候、右之通相違之儀も御座候ハ、浚御請負之儀御取上可被成候、其節一言之儀申間敷候、以上

元錄十二年卯二月廿八日

元柳原六丁目紀伊国屋七右衛門店

神田紺町貳丁目

太郎治
喜平治

大伝馬町壹丁目・貳丁目

月行事

三左衛門殿

次郎右衛門殿

〔十六〕 差上申一札之事

一、大伝馬塩町町並小下水之儀、先規より牢屋前大下水江落来候、右大下水之落口留り候而者町内之者共迷惑仕候、小下水落口之儀御尋ニ付書付を以申上候、以上

享保四年亥六月廿一日

大伝馬塩町

月行事 六兵衛

同 久左衛門

名主勘解由他行ニ付
代 佐次右衛門

下村弥助殿
上坂安左衛門殿

右者牢屋前江右御兩人御出御尋ニ付差出候

一、塩町牢屋前下水浚御座候ニ付、塩町小下水右牢屋前之下水落口有之候ニ付、此度下村弥助様・高坂安左衛門様御吟味之上、享保四亥八月六日 越前守様御内寄合江被召出、牢屋辻番前より下水堀落口迄拾貳間之所、塩町町人より浚仕候様被仰付候、同廿三日右浚御座候ニ付塩町も同日浚申候

〔十七〕 六助橋普請請負人代金請取手形之事

一、金拾貳兩壹分銀九匁八分六厘 小伝馬町五町分

此間數六百七拾七間四尺八寸

合金七拾貳兩銀拾匁貳分壹厘 間數合千七百八拾七間四尺貳寸五分
二口合金百四拾四兩壹分銀四匁四分壹厘 但入用目錄者別紙有
六助橋・同橋台一式拙者共落札ニ付代金請取申候、以上

弥兵衛町

札主 治右衛門

佐久間町

証人 伊兵衛

下船町三丁目
札主 市左衛門

川瀬石町
証人 作左衛門

右之通入念金割仕候、以上

樽屋藤左衛門 印
喜多村彦兵衛 印
奈良屋市右衛門 印

右帳面之通無相違候間可被 仰付候、以上

渡辺大隅守 印
村越長門守 印

〔朱書〕
「十八」

一、貞享貳乙丑年千鳥橋入用金割付之事、浜町・橘町より申来候ニ付、
目録仕候而下船町月行事西村佐右衛門・伊勢屋六兵衛・下船横町玉
子太郎兵衛・溜屋久兵衛・此町兩人町年寄三人持参申候、則此帳者
御返し被成候、以上

丑八月廿六日

与兵衛
孫右衛門

〔朱書〕
「十九」 御公儀橋御普請之節砂利取人足請負証文之事

一、町々所々御 公儀橋御普請之節、砂利取人足之儀此度私共御請負申

上、老入ニ付代銀老入八分宛ニ相極申候、町年寄衆より御配府出次第、何時ニ不寄人足之高無滯急度出シ相勤可申候、尤御用場所諸道具何ニよらず為持月行事相添可申候、諸道具・月行事之儀者實銀不申請右之代銀之内ニ而相務可申候、若人足之儀ニ付如何様之儀出来仕候共、御町々江御苦勞掛不申、拙者共罷出埒明可申候并如何様之儀有之候共、重而人足實銀御訴詔申上間敷候、仍如件

元禄十二年卯二月廿五日

月行事衆中

吉川町請負人
伊勢屋新右衛門 印
浅草東中町
上屋新七 印

一、實銀申請候節者右之判形を以可申請候

〔朱書〕
「廿」 覚

一、町方ニ有之候橋之儀、武士方町方并町方計入目割合橋有之候ハ、
書付差上可申旨被仰渡候ニ付、為御断一札差上申候、以上

享保四年亥三月

大伝馬町 月行事 彦三郎
同塩町 同 十左衛門
通旅籠町 同 藤兵衛
堀留町 同 忠右衛門
下船横町 同 喜右衛門

〔朱書〕 橋之書上

一、伊勢町道淨橋長サ四間幅三間、此橋之儀者伊勢町計ニ而先規より掛ケ来申候

一、伊勢町 下船町間之橋、此橋もやいの町 長サ拾貳間幅貳間

本兩替町 北鞘町 品川町 同裏川岸 室町壺丁目・貳丁目
駿河町 安針町 本小田原町壺丁目・同貳丁目
瀬戸物町 伊勢町

右之橋普請等入用割合之節者、瀬戸物町・伊勢町之儀者外ニ橋壺ヶ所宛町内切ニ而掛ケ申候ニ付、右橋之割合者他町之半減割付請申候

右之通相違無御座候、以上

享保五年子七月 伊勢町 月行事 仁兵衛
同 十兵衛
名主 勘解由

右之通奈良屋江差出候

〔朱書〕 川岸藏裏之方瓦葺庇願

差上申一札之事

一、表貳間五尺貳寸裏行四間 堀留町 家持 次郎右衛門

右之藏河岸ニ先規より建置申候、藏之裏ニ明地御座候ニ付、表並貳間五尺貳寸裏行七尺五寸瓦葺庇ニ仕度奉願候

同町次郎右衛門店

一、表貳間壺尺八寸裏行三間五尺 藏主 三郎兵衛

右之藏川岸ニ先規より建置申候、藏之裏ニ明地御座候ニ付、表並貳間壺尺八寸裏行七尺五寸瓦葺庇ニ仕度奉願候

一、表貳間半裏行三間半 同町家持 藏主 孫右衛門

右之藏川岸ニ先規より建置候、藏之裏ニ明地御座候ニ付、表並貳間半裏行五尺八寸瓦葺庇ニ仕度奉願候

一、表貳間半裏行三間 同町 藏主 同 人

右之藏川岸ニ先規より建置候、藏之裏明地御座候ニ付、表並貳間半裏行八尺貳寸瓦葺庇ニ仕度奉願候

右之通藏之裏ニ瓦葺庇ニ仕度旨、今朝 御番所江御訴訟申上候所、御檢使被下置藏場所御見分被成候、絵図・書付之通相違無御座、障儀も無御座候、願之通被仰付候ハ、藏普請出来次第御断可申上候、為後日名主・五人組加判仕一札差上申候、仍如件

元録十二年卯七月廿日

堀留町家主 藏主 次郎右衛門
同町次郎右衛門店 同 三郎兵衛
同町家持 同 孫右衛門
五人組 喜兵衛
同 長五郎
名主 勘解由

〔朱書〕 中渡之覺

一、新規藏有来ニ而も広仕候歟、ふ〇を替候歟、又者建直藏最初之藏よ

り狭仕候願、并番屋或者床火之見櫓表通り有来候穴蔵引直等、都而此類之願

右願有之候ハ、其町々名主・家主・五人組立合、場所を絵図ニ致、無相違段奥印被致連判、御番所江可差出候、見分被遣候節、為案内町人御番所江罷出候ニ不及候

但見分之節、此方共手代・樽屋三右衛門手代、向後不罷出候間、証文之儀者只今迄之通此方共方江可差出候事

一、新規ニ湯屋名題讓請候歟、持来名題ニ而所を替候歟

右唯今迄見分被遣候上、障之有無御吟味ニ而被仰付候所、向後者右願人有之候ハ、其町々名主・五人組并隣町之者共与相談之上、障儀無之候ハ、其段絵図面ニ顯し奥書連判ニ而御願申候ハ、言上帳ニ御記候而見分者被遣問敷候

但証文者唯今迄之通此方共方江可差遣候

一、仲間有之商人諸願之事

右唯今迄者大勢罷出候、向後者仲間式三人程宛罷出候様名主より可申付置候

右之趣從 御奉行所被仰渡候間、向後町中之者共相守候様支配江急度可申渡候、以上

丑五月

覺

一、有来候蔵其儘ニ而修復仕候儀、此方共月番之方江申来次第見分遣し、相違無之候得者月番之方帳面ニ判形為致候、右之儀者只今迄之通相心得、此方共月番之方江可申出候、前々之通見分遣可申候、以上

右者享保六丑年被仰渡

〔朱書〕
「廿四」 乍恐以書付奉願上候

一、浅草旅籠町壹丁目長右衛門申上候、江戸御町川通河岸并本所・深川・

浅草惣而川通川付之分、御公儀様御川岸ニ御座候処、川通町屋敷所持之者共自分之川岸之様ニ存、川通りニ借土蔵を建、借蔵ニ仕、或者材木・薪・青物等諸商売物積置、又者物置等ニ仕来候得共、唯今迄

御公儀様江何之御奉公仕候儀茂無御座候、此度私御願申上候者、川通町屋敷所持之者共より小間壹間ニ付壹ヶ月銀貳分五厘宛差出申候様奉願上候、尤御屋敷様方相除可申候、勿論其場所ノ寄、店

借之者共より川岸代壹坪ニ付壹ヶ月銀三分四分程宛取来候家持共御座候、私儀者壹ヶ月小間壹間ニ貳分五厘ツ、御願申上候、左候ハ、借屋之者共之太分之勝手ニも罷成申候、其上私所々ニ火消人足抱置、

川通川岸之出火之節者、川岸ニ積置申候諸商売物、又者土蔵等大勢ニ而為防可申候、是又川岸之者共之勝手ニも罷成可申与奉存候御事

一、浅草・竹橋・本所三ヶ所御蔵米持人足之儀、壹ヶ年四万五千人宛為御忠切^前私方より差出、毎日御蔵御用無滞御大切ニ相勤可申上候、御

蔵人足之儀、先年者年季御請負ニ而直段壹人ニ付總百廿文程ニも御座候処、近年者年々入札被仰付、年々直段引下殊之外下直ニ糴下ケ、

則去未三月より相勤申候者壹人ニ而銀七分六厘ニ御座候、当申三月より落札直段壹人ニ付銀八分八厘九毛總ニ而四拾文程ニ相当申候、余り下直ニ御座候故、外々より日用參候者無之、数年御蔵前ニ罷在候日

用之分、此者共者外之商売躰ニ懸り候儀難成、無是非御蔵江罷出渡世仕候故、妻子等はこくみ兼、渡世致兼難儀仕罷在候、殊ニ夏御蔵納之儀、朝涼内明六ツ時納ニ御座候得共、余下直段故早朝より人足操兼、九時分迄御懸り被遊候故、御米江日当り、其暑キ御米御蔵詰ニ罷成候故、御米痛受申候ニ付、廻し等切申候、尤當時迎も人足少く御役之御差間ニも罷成申候、差出申候人足尅人前銀尅刃七分宛ニ相払可申候、左候ハ、外々より日用多出申候ニ付、いか程共人足差支申候儀無御座候得者、御蔵御納御役も抄取可申与乍恐奉存候、其上御蔵前日用共妻子等渡世心易仕候得ハ、自然与御蔵御手廻ニも罷成、別而下々之者共御救与乍恐奉存候、右願之通御吟味之上被為仰付被下置候ハ、家質証人相立、申年より巳年迄拾ヶ年季ニ御請仕、御蔵御用御大切ニ相勤可申候、被為仰付被下置候ハ、難有可奉存候、以上

元文五年申正月

御奉行所様

浅草旅籠町壹丁目代地

願人 長右衛門

浅草旅籠町壹丁目長右衛門御忠節之儀申上候、川通川岸小間ニ付壹ヶ月銀貳分五厘宛取立申度段御願申上候ニ付、障之儀御尋ニ御座候、左ニ申上候

一、只今迄町々川岸地面壹坪ニ付銀三四分程宛、都而地主共取候様申候、此儀所々より地代少々宛取候地主も稀ハ可有御座候得共、惣躰町々左様ニハ不仕候、此以後悉町中川岸地面より壹間ニ貳分五厘ツ、取立

候而ハ、家持者不及申地借・店借迄大勢難儀可仕与奉存候、且又出火之節願人方より人足差出、土蔵・商売物等飛火為防候様申上候得共、左様成時分ハ其主共より銘々力ニ及候程者相防、其上組合町人足共相懸り候へ者、余慶ニ願人之人足用候ニおよひ不申、尤願人入足出候ハ、入交却而混雜仕、火防之障ニ可罷成哉与奉存候、殊ニ川岸之儀先規より川岸付家持共江被下置候ニ付、川岸蔵等御願申上、建置或者商売物差置候ニ付、所ニ寄家持共入用を以橋を掛并川浚等致、不淨流物物迄世話ニ仕来候、尤空地ニ致置候川岸之儀者、舟稼之者共者不及申上諸商売物自由揚引仕候ニ付、隣町之者共迄勝手能商売致来候而難有奉存候所、願人共申上候通地代銀取立候而ハ願人地面之様ニ罷成可申与奉存候、近年不商ニ而家持共迷惑仕、別而地かり・店かり困窮仕、地代・店賃相滞候上、地代銀差出候而ハ大勢之者共難儀可仕与奉存候間、唯今迄之通御差置被遊候様奉存候、以上

元文五年申二月

惣年番

名主共